

社会と自分を見つめ、学びとり、  
得たものを社会に還元していくという、  
高い志を持った女性を育てたいですね。

品川女子学院  
中等部・高等部

うるし し は こ  
漆紫穂子  
校長先生

「28プロジェクト」をはじめとする、  
数々の斬新な取り組みに注目が集まる  
品川女子学院中等部・高等部。  
その創立者の曾孫であり、  
同校の飛躍の立役者でもある、  
漆紫穂子校長先生にお話を伺いました。

教員になるために  
生まれてきた自分

本校は私の曾祖母が1925年に創立した学校で、我が家は曾祖母、祖父、両親、そして2人の弟と私という8人家族でした。私が幼い頃から、両親は本校の経営に携わっていましたので、いつも大変忙しく、我が家では、何より学校を一番に考えるというルールが暗黙の了解でした。ですので、忙しい母に代わって、食事を兄弟で作って食べるなどもよくありましたね。

私は小・中ともに地元の公立に進み、高校は都立日比谷高校に進学しました。進学などについて、両親から何かを言われたことはなかったのですが、今思えば、学校運営という大事な使命の前には、私の教育はこの次だったのでしょう(笑)。ただ、それを不満に思うことは、全くなかったですね。私も、学校を一番に考えることを、当たり前のごときとして受け止めて

いましたから。

私は、物心ついたときには既に、将来、教員になると心に決めていました。おそらく生まれたときから、教員になりたいと思っていたのではないのでしょうか。今となっては、家を選んで生まれてきたのではないかとさえ思うくらいです。一番幼い記憶は、4歳の頃です。通っていた保育園で、先生に着替えを急がされた私は「先生、待つて。順番があるの」と言いました。信じがたいかもしれませんが、私はそのとき「子どもなりのやり方があるのだから、待つてあげられる先生になる」ということを考えていたのです。後に「幼児にも自分なりの順番がある」ということを教わったと、その先生から言われましたね。それから出会ったたくさん先生の先生たちの、いいところも悪いところも、全て自分に蓄積し、自分なりの理想の教員像を思い描いてきました。生徒としての視点で感じたことを、いつか教員になったとき

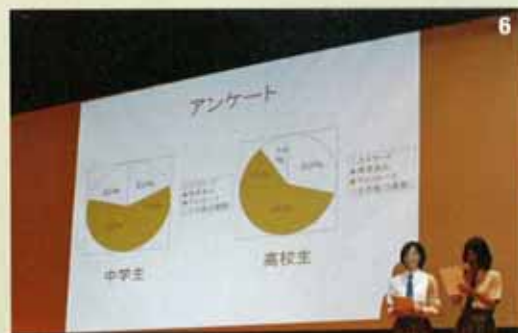
に活かそうと思っていたのです。中でも、小学校時代に水泳の指導をしてくれた先生は、私の理想の教員像として強く印象に残っています。

当時、私は水泳を習っていたのですが、なかなか記録が伸びずにはいませんでした。ある記録会のとき、ゴールした私に、先生はストップウォッチを押しながら「ベストだね」と声をかけてくれたのです。こんな私のベストタイムを、きちんと覚えていてくれたことが本当にうれしくて、思わず涙がこぼれました。その先生の「いつでも褒められる子は、放つても誰かが褒める。それよりも褒められることの少ない子のほうが、私は気になる」という言葉はとも印象的でした。この言葉が、私の教員としての原点になっていると言えらるかもしれません。

経営者ではなく  
教員になりたい

高校生になっても、教員になりたい





4.屋上の人工芝のテニスコート。5.株式会社サンリオとコラボし、文化祭で販売した「品女キティ」の売り上げで、カンボジアに小学校を寄付しました。6.高1～2年における起業体験プログラムのプレゼンの様子。7.中3の総合学習で、岩塚製菓とのコラボによる新商品を開発。8.中1～2年では、礼法、茶道、華道、着付けを3～5回シリーズで習います。9.利用者の多い図書館。10.クラス対抗の合唱祭。11.2011年7月には、ノーベル平和賞を受賞されたムハマド・ユヌス氏が来校し、講演を行ったそうです。



1.6か年を有効に使ったカリキュラムは、生徒の総合力を高めます。2.カフェテリアは生徒の憩いの場です。3.体育祭は学年対抗、団結力が養われます。

## 漆紫穂子校長先生、品川女子学院中等部・高等部の魅力を教えてください!

「28プロジェクト」を軸とする、新しい女子教育を進める品川女子学院中等部・高等部。さまざまな取り組みにチャレンジし続ける、同校の魅力に迫ります。



ココが魅力です!

・女性ならではの個性を磨く新しい教育。  
 ・世界に目を向け、世界で活躍できる女性を育てる。  
 ・自分の夢を見つけ、実現できる力を養う。

### 注目を集める新しい女子教育

品川女子学院中等部・高等部が、独自に打ち出している「28プロジェクト」は、新しい女子教育として、大衆目を集めているプロジェクトです。これは、28歳になったときに、社会で活躍している女性を育てる、という、これまでとは全く違った視点からのキャリア教育です。女性にとっての28歳を、それまでに学んだことを社会に還元できるように、また同時に結婚・出産を考えた時、人生のライフ・ワークバランスを取る時期と位置づけ、このとき生涯を視野に、自らの人生の目標を設定できるような、進路指導を実践しています。たとえば、出産後も続けやすい専門性の高い職業を目指した進路指導や、社会で必要と高いコミュニケーション能力の育成、国際舞台での基礎スキルとなる英語能力の向上など、

と、さまざまな取り組みが行われ、将来のビジョンに向けて行動できる女性の育成に力を入れています。プロジェクトでは、広く社会や世界を知るために実践を重んじ、中1では地域について、中2では日本の文化や伝統について学びます。さらに中3以降になると、企業とコラボレーションして商品開発をしたり、文化祭では「起業体験プログラム」なども行われます。こういった活動を通じて、生徒たちは自分の将来について、真剣に考えていくようになります。

また同校では、6か年にわたる完全一貫教育を実施しており、先取り学習をしながらも、生徒が余裕を持った学校生活を送ることができるよう、カリキュラムが設定されています。入学してから5年間で、無理なく大学進学に対応できる基礎学力を身につけ、高3では進路に沿った選択科目や演習によって、さらに実践的な学力を養えるよう工夫されています。また、文系・理系を問わず、5教科の大学入試に対応できるカリキュラムが組まれており、国公立大、私大入試の受験科目の違いに関わらず、生徒の総合力を高めることを目指しています。そういった考え抜かれたカリキュラムが、近年の進学実績の伸びにつながっていると語るでしょう。

**DATA**  
 アクセス/京急北品川駅から徒歩2分  
 所在地/東京都品川区北品川3-3-12  
 TEL/03-3474-4048